

2025年 7月 1日

各位

株式会社三井住友銀行

株式会社グリーンシステムコーポレーションに「SMBC 社会課題解決推進支援融資」を実施

株式会社三井住友銀行（頭取 CEO：福留 朗裕）は、株式会社グリーンシステムコーポレーション（代表取締役：阿久津 昌弘）に「SMBC 社会課題解決推進支援融資」を実施いたしました。

「SMBC 社会課題解決推進支援融資」は、融資実行時に、株式会社三井住友銀行と株式会社日本総合研究所（代表取締役社長：谷崎 勝教）が、企業の社会課題解決に向けた取り組み状況を確認した上で、①組織の社会課題への取り組み姿勢等に対する所見と、②ロジックモデル（事業活動を通じた社会課題への道筋が見える化したもの）の仮説を提示し、今後の取り組み推進に向けたアドバイス等をご提供する融資商品です。

今回対象となりました、株式会社グリーンシステムコーポレーションについては、以下に記す事業を通じた社会課題解決について、取組推進に向けたアドバイス等を提供しました。

① 営農型太陽光発電事業を通じた持続可能な農業実現への貢献

事業内容	貴社は太陽光パネルの下で作物を栽培することができる営農型太陽光発電設備を農地や耕作放棄地に設置するとともに、農業未経験者を含めた若手を中心とする従業員を雇用し、同設備の設置区域での作物の有機栽培に取り組んでおられます。発電した電力は、外部へ供給・販売し、売電収入を耕作放棄地の解消や担い手育成の取り組みに活用しておられます。
当該事業を通じて解決を目指す社会課題	生物多様性の回復
社会課題解決への貢献内容	営農型太陽光発電事業として売電収入を得ることで、有機栽培の収益性が向上すれば有機農業の拡大に寄与すると考えます。有機栽培は農薬及び化学肥料を使用しないことから、土壌中の微生物が増えることで、生態系豊かな農地の拡大が期待できます。また、土壌中の微生物が豊富になることで、土壌の炭素貯留が促され、気候変動の緩和につながると考えられます。貴社が農家から譲り受けた農地や耕作放棄地で営農を継続することで、耕作放棄地問題の改善にもつながります。さらに、若手も含め農業に携わる人材の雇用を増やすことで、高齢化する農家の担い手不足を解消し、地域活性化に寄与しておられます。

（参考）社会課題概要

1975 年以降、年間約 4 万種の生物が地球上から絶滅していると言われ、2030 年までに生物多様性の損失を食い止め回復に転じること（ネイチャーポジティブ）が国際目標になっています。生物多様性に影響を与える要因は、「土地利用改変」、「気候変動」、「汚染」、「天然資源の直接利用」、「外来生物」の 5 つに整理できます。日本はサプライチェーンを含めると、世界各地でこ

これらの影響を与えています。

株式会社三井住友銀行では、「SMBC 社会課題解決推進支援融資」を通じて、お客さまの幅広い社会課題解決に向けた取組を支援することで、お客さまとともに社会的価値創造の好循環を生み出す取組を推進してまいります。



大型農機が作業出来るスペースが確保された圃場 ～ 大型コンバインで収穫される大麦



収穫量、品質とも近隣農家と遜色ない圃場 ～ 大きく成長するデントコーン



ネイチャーポジティブとカーボンニュートラルの両立する圃場
～ 水田では沢山の絶滅危惧種が繁殖（タガメとハウネンエビタガメ）

以 上